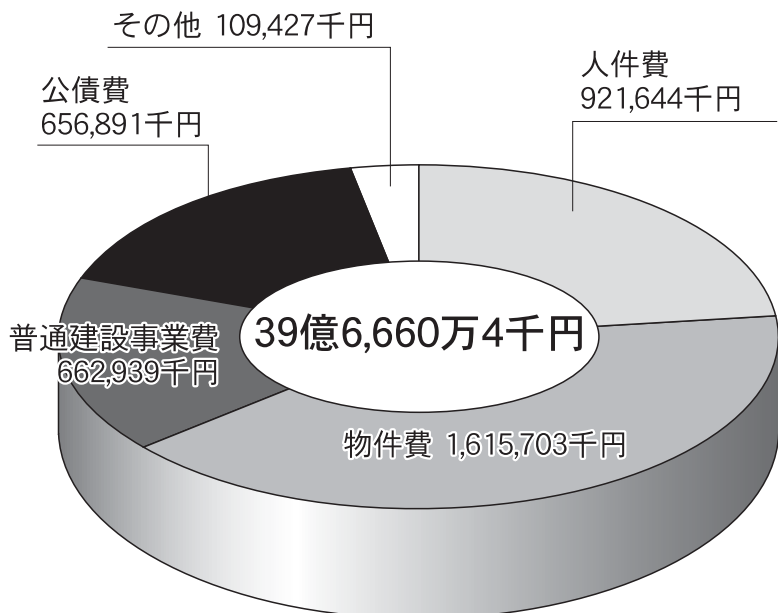


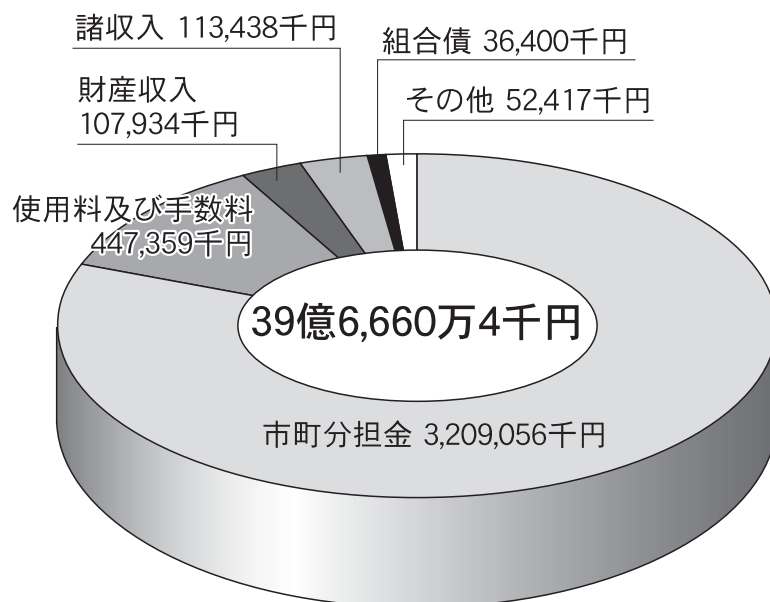
城南衛生管理組合設立50周年⇒これからの50年を見据えて 平成24年度予算報告

城南衛生管理組合の平成24年度予算を報告します。予算総額は、歳入・歳出39億6,660万4千円で、前年度比△7.9%となりました。また、皆さまの市町からの分担金は、32億905万6千円で、前年度比△9.5%となっています。

歳出



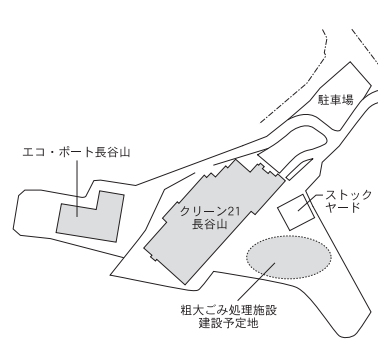
歳入



平成24年度は、当組合設立50周年の記念すべき年にあたります。これまでの50年の歩みは、し尿処理場、ごみ焼却工場、最終処分場など、次の世代のための施設整備事業を絶え間なく続け、管内の生活環境の保全と廃棄物の適正処理に努めてきた歴史といえます。これまで先人の努力により築いてきた処理施設の次の50年を見据え、安心安全な工場運営に必要な更新事業を「中期総合事業計画」に基づき進めることとしています。

平成24年度の予算については、給与の適正化と職員定数の削減「および」「民間委託による工場運営」など今日まで進めてきた行財政改革の効果や公債費の低減などにより、昭和62年度決算以来の小さな予算規模となっています。

行財政改革と公債費の低減により予算縮減



3Rを推進し、循環型社会の構築に寄与する施設とする

施設の維持管理費を極力抑え、経済性に優れた施設とする

太陽光発電などの設備を導入し、環境に配慮した施設とする

その他プラスチック製容器包装資源化について、啓発機能を有した施設とする

ごみの持つエネルギーの利用によるごみ発電の設備を備えるとともに、水資源を有効利用する施設とする

施設建設費、運転管理費などの低減が可能な経済性に優れた施設とする

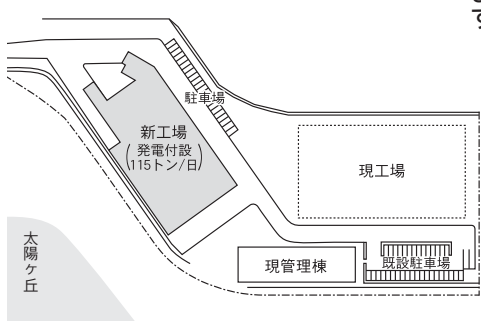
ごみの持つエネルギーの利用によるごみ発電の設備を備えるとともに、水資源を有効利用する施設とする

施設の建設にあたる基本方針の概要は次のとおりです。

事故や運転管理のトラブルのない安全・安定的に処理できる施設とする

排ガス、悪臭、騒音、振動、排水による影響など周辺環境の保全に配慮した施設とする

施設建設費、運転管理費などの低減が可能な経済性に優れた施設とする



平成24年度の主な事業

○粗大ごみ処理施設等更新事業

昭和61年稼働の奥山リユースセンターの更新事業は、粗大ごみ処理施設(60t/日)にその他プラスチック製容器包装資源化施設(17t/日)を併設し、平成27年度の稼働を目指し、今年度は契約、実設計図書作成や仮設・準備工事に着手します。

処理対象物は、粗大ごみ可燃性・不燃性、不燃ごみ、その他プラスチック製容器包装、廃乾電池、廃蛍光管、廃スプレー缶を予定しており、現在のクリーン21長谷山に隣接して建設します。

また、施設更新における基本方針として、次の項目を掲げています。

○折居清掃工場更新事業

昭和61年稼働の折居清掃工場の更新事業は、稼働開始予定年度を平成30年度とし、1日の処理量を現工場の230tから半分の115tへ規模を縮小して実施します。また、建設場所は、左図にあるように現折居清掃工場の敷地内を予定しています。

今年度は、平成27年度からの工事着工のための地質・測量調査および環境影響評価を実施するとともに、PFI導入可能性調査を行い、発注方法についてより最適性を求めます。